

公益社団法人 日本ボート協会
強化委員会

2022 年度強化活動総括

昨年 10 月に発表した 2022 年度の目標は、アジア競技大会において世界と戦う「スピード」を有する日本代表チームを編成し、アジアにおいて確固たるプレゼンスを達成することであった。しかし、残念ながら中国・杭州で開催されるはずであったアジア競技大会は 2023 年に延期された。2022 年世界選手権において、日本が出漕した種目のうちオリンピック対象の 4 種目において 2023 年世界選手権におけるオリンピック出場枠を満たす順位だったのは、M1x のみであった。他の 3 種目においては、オリンピック出場枠のレベルからは遠いものとなり、特に LM2x、LW2x においてはオリンピック出場枠のボーダーラインからは後退した。なお、LM1x と LW1x も同傾向にあるといわざるを得ない結果であった。

2023 年度に関しては、2024 年パリオリンピックで Final A に進出しメダル獲得を目指すマイルストーンとして、オリンピック出場枠を獲得することの重要性を鑑み、2023 年世界選手権をアジア競技大会と同様に最優先大会として位置づけることとした。

当委員会としては、「パリオリンピックに向けた基本的な考え方」(JARA 発番 2019-224 号・2019/11/15 付)に基づき強化を推進する所存である。以下に「2022 強化方針および強化活動について」(JARA 発番 2021-167 号・2021/10/27 付)に掲げた強化方針について、課題を整理したい。

(1)強化メソッドの浸透と継続的なトレーニングの実施

①本年度の強化合宿は約 200 日に及んだが、選手はその残りの日数を各所属団体等において活動したため、その所属チームにおける強化メソッド実施状況は非常に重要であった。Xavier コーチと所属チーム指導者のコミュニケーションにより、強化メソッドへの理解を深めることはできたが、今後もさらに継続していく必要がある。

②冬季の強化合宿においては、代表選手の所属チームからサポートコーチの派遣が実現し、強化活動のサポート及び強化メソッドへの理解を深めることができた。しかし、限りある強化予算の配分および新型コロナウイルス感染症の終息が見通せなかったこと等が影響し、サポートコーチを海外強化合宿および国際大会に派遣することは叶わなかった。強化メソッドの更なる浸透と将来の強化活動の一翼を担うであろう各サポートコーチの知見を広げるチャンスとして、今後も海外派遣を視野に入れたサポートコーチ制度の継続していく必要がある。

③ナショナルコーチと代表選手、所属チームとの定期的なミーティングを実施した。また、必要に応じ選手個別のミーティングも実施し、Xavier コーチの考え方の理解を深めることができた。このようなミーティングには、適宜フランス語通訳が同席したことにより、例年に比べ相互理解が深まったと実感

している。

なお、東京オリンピック後パリオリンピックに向けさらに進化する先進国のトレーニングモデルを例とし、日本にマッチしたトレーニングプログラムへの進化を図るべく、トレーニングプログラムの改善を行った。特に 3 モーションの日を増やし 1 回あたりのトレーニングの質の向上を図ることにより、その結果、全体的なトレーニング効果を上げることを狙っていった。

(2)オープン種目およびスウィープ種目の強化

①2022 年度は、Small Boat Selection およびクルー決定レースの結果により、世界選手権日本代表候補選手およびアジア競技大会日本代表選手を決定し、それぞれを A 代表・B 代表とし海外派遣を行うことができた。

②アジア競技大会は延期となったが、パリオリンピックのクォリフィケーションとなる 2023 年世界選手権を来年に控えていることから、選手間には高いライバル意識によるレベルアップが図れた。

③アジア競技大会は延期になったが、オープン種目においてアジアの強国を目指している中で選出された男子フォア、男子シングルスカル、女子ペア、女子ダブルスカル、女子シングルスカルは、WCⅡおよび WCⅢに出場し、世界のトップ水準には及ばないものの国際大会出場経験の蓄積を図ることができた。また、国内での評価レースが出来なかったため、WCⅡ・WCⅢを評価レースの一部とした男子ペアは、世界のトップレベルで戦える可能性が十分にあることが確認できた。

今回 A 代表・B 代表は WC の事前合宿をフランス・ベルサンで行った。その間、選手間での前向きな競争意識が働き、レベルアップがみられた。なお、これらの海外遠征の実施にあたり、シーズン途中に各所属団体より多大なる負担を強いることになってしまったことについて、深くお詫び申し上げるとともに、本協会として状況の改善に努めなくてはならないところである。

国際舞台においてオープン種目およびスウィープ種目の強化を進めるためには、選手が柔軟性をもって様々な種目に挑戦できるようにし、可能性を見出していく工夫をしていく必要があると考えている。他方で、選手選考のプロセスは公平性、透明性及び公正性を確保する必要がある。双方の要請を両立する選考の仕組みを検討したいと考えている。この仕組みの実施に際しては、各選手及び所属団体の理解を得ることが必要だと考えている。

(3)組織力の強化

①代表選手所属チームからのサポートコーチの派遣が実現したことにより、所属チームとの連携により選手への継続指導の実現の可能性が広がった。今後、より効果的に継続・発展させていけるよう取り組むべきことである。代表選手の所属団体からのサポートコーチの派遣が実現したことにより強化合宿招集人数を増加させることおよび所属団体における強化メソッドの浸透による継続的なトレーニングの実現の可能性が広がったと思われる。各所属団体のご理解ご協力のもと強化活動をバックアップしていただき、重ねて深く感謝したい。今後もこのプログラムを継続し、発展できるように取り組みたい。

②合宿・レースにおける成果報告をもとに、選手の成長を継続して分析できる体制を整備する点については、選手の成長の確認はできているが、その成長を継続して分析できる体制の構築には改善の余地が大きく、整備に注力したい。

また、5-7 月の合宿を行ったベルサン(フランス)において同時期に合宿を行っていたフランスチーム

は、22 名の選手に対し、スタッフ(コーチ、トレーナ、医師、理学療法士、メンタルトレーナー、機材担当、マネジメントスタッフ等)が 15 名であった。他方で、日本チームは、選手は同数の 22 名であったが、スタッフ(コーチ、トレーナー)が 4 名という体制であり、地理的な問題はあるものの、両国の選手を支える体制には大きな差が見受けられた。今後、継続的に選手をハイパフォーマンスに導くためにも、選手をサポートする体制をさらに充実させる必要がある。

③協会内の医科学委員会から、新型コロナ対応で情報連携し的確なアドバイスを受ける等のサポートを受けた。パラローイング委員会とは用具の共有を実施したり、世界選手権に合同の選手団を派遣したりする等の連携を図った。

(4)U23、U19 世代の育成および強化

①ワールドユニバーシティゲームス、U23、U19の活動を通し、将来のナショナルチームを担うメダル・ポテンシャル・アスリートに対して強化メソッドが連続して実践できる環境を整備した。また冬季の強化合宿においてU23カテゴリーから3名をシニアカテゴリーの合宿に招聘しトレーニングを実施した。

②ナショナルコーチと大学チームによるミーティングは実現したが、機会が限定的であったため、強化メソッドの浸透等、相互理解を図るために今後さらに充実させていく必要がある。

なお、U23 カテゴリーにおける目標は U23 世界選手権における軽量級種目でのメダル獲得、及びオープン種目での Final A 進出であったが、目標達成には至らなかった。U23 カテゴリーにおいては、現在のトップ選手の継続強化と、新たなタレントの発掘・育成を未来のシニア層強化、育成を図るために積極的に行う必要性がある。

また、U19 カテゴリーにおける目標は、U19 世界選手権における出漕クルー数の上位 50%に入ることであった。こちらは JW2xが達成することができた。U19 カテゴリーにおいては強化メソッドの継続実施により、アジアジュニア選手権においても、その成果が十分に現れたと言えよう。今後は更に、U19 カテゴリーから U23 カテゴリーへの強化メソッドの連続性・継続性を推進していかなければならない。

(5)国際大会への派遣

①中国で開催される予定であったアジア競技大会およびワールドユニバーシティゲームズは開催が 2023 年に延期された。

②シニア世界選手権、U23 世界選手権、U19 世界選手権、WC II、WC IIIおよび Holland Beker に約 3 年ぶりに本格的に選手を派遣し、世界レベルにおける我々の立ち位置を知るとともに国際大会出場経験の蓄積を図ることができた。

(6)継続強化選手の指定

①毎年の着実な成長を図るべく、2020 年シニアナショナルチーム強化活動招集選手、2021 年シニア日本代表候補選手および 2000m エルゴメーターで一定以上の記録を有する選手を対象に、シーズンの狭間のないトレーニング機会を提供できるように冬季強化合宿を実施した。この強化合宿では強化メソッドの浸透および定着と併せ、競争意識とチームスピリットの醸成を目指し、お互いを尊重し影響を与え受けながら個人のレベルアップを図った。

②指定された選手に対して、シーズンの狭間のないトレーニング機会を提供することについては、サ

ポート、フォローを行うことができた。今後は能力が著しく高い選手に対し、Xavier コーチが持つヨーロッパにおけるコネクションを利用した効率的な強化活動を実施することを検討したい。

7. 新型コロナの感染症への対策

2020 年初頭より始まった新型コロナウイルス感染症拡大は終息する兆しを見せない中、世界では社会活動が再開されている。

国内合宿では自覚症状のある者また陽性反応を示した者が発生したが、HPSC と連携し、検査体制を構築することでクラスター事象の発生には至らなかった。しかしながら、海外合宿および国際大会においては国内のような厳しい検査体制や感染防止対策は行われておらず、飲食時等に感染するリスクを抱えることになった。そのため、高機能マスクや手指消毒剤を配布する等、状況に応じた的確な感染防止対策を実施した。

また、日本帰国時に課せられた PCR 検査による陽性反応判明によって最終日のレースを棄権しなければならない事象も生じた。

今後も的確な感染防止対策の実行と臨機応変な対応により強化活動を継続したい。

以上